

GlobalvoiceCALL 導入事例

HOYA SERVICE CORPORATION

HOYAサービス株式会社

音声ソリューション事業部

初めて入力した文が音声で流れると、学生達から「すごい！」という声がありました。

流通科学大学 商学部
准教授 山本勝巳 様



GlobalvoiceCALL

流通科学大学では 2011 年度から Moodle を利用したブレンド型授業を取り入れた新カリキュラムをスタートさせました。その教材作成で GlobalvoiceEnglish を利用してその有用性は理解していたので、TTS 合成エンジンを共用する発音評価ソフトには当初から興味津々でした。

2011 年 5 月の GlobalvoiceCALL(GVC)製品評価版の完成にあわせて、GVC を CALL 教室での講義で利用しています。主な使い方は、教科書でその週に扱った部分から学生が読みにくそうな一部分を抜き出して練習させるという用途です。学生には、モデル音声を聴いてから、なるべくその真似をして読むように指示しています。ここでは、発音練習のモデルとして新規の英文をその場で提供できることが本当に役立っています。練習する英文を初めて学生に入力させた時には、ボタンを押したらすぐにヘッドセットから入力した文が音声として流れてくることに「すごい！」という声が聞かれました。モデル音声との一致度が評価の基本になるので、男子学生は男性モデル、女子学生は女性モデルを選択するようにしています。速さ調節もできるので、練習しやすいようです。

その他の GVC のメリットは、単語と文という二つのレベルで発音練習ができること、判定は自動評価で即座に表示されること、分節音だけでなくアクセントやイントネーション、リズムといったプロソディについても練習結果が視覚化できること、学習者の目標レベルが初級・中級・上級と選べること、だと思います。単語レベルでの読みに苦労する学生もいますし、一つ一つの単語の発音は大丈夫だけれど文として読むのは苦手、という学生もいます。その間を行き来しながら発音練習できるのは助かります。また、評価に時間がかかって練習時間が減ってしまったのは本末転倒ですが、本学の CALL 環境（特筆するほど先端スペックではありません）でも瞬時に判定されるので、練習時間の足をひっぱることはありません。発音練習そのものはポイントを押さえて繰り返すことが重要だと思いますが、GVC では単語・アクセント・イントネーション・リズムといった異なるポイントからの評価が「見える化」されるため、練習にも熱が入るようです。授業内では「初級者」レベルで練習するよう指示していますが、いずれ講義外で高い目標を持った学生が利用する際には上のレベルで練習させることが可能だと思います。その場合には、もともと用意されている単語・文レベルでの練習素材だけでも十分な量だと思います。

GVC を使って学生の練習成果の蓄積ができることも魅力です。録音は自動で行われますし、その評価結果が保存

されますので、講義時間内での学生の向上度合いだけでなく、今後は学期を通しての進歩も確認できると期待しています。

[2011.06.18]

流通科学大学

<http://www.umds.ac.jp/>

 流通科学大学